

令和7年度 事務事業マネジメントシート		段階： 令和6年度実施事業に係る事務事業評価						1120		水辺空間整備事業				建設構想部		河川課	
1 事業概要		中事業番号		914										所属コード		304000	
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	手段	意図（目的）					
大綱（取組）	V「暮らしやすいまちの未来」	11.5 11.b									地域の共有財産である河川を、自然に触れ合える憩いの場として利用できるよう、河川愛護団体等による河川管理を促進するとともに、水辺空間の整備について調査・検討する。	各々の河川が持つ歴史、風土、自然環境を十分に尊重した有効な水辺空間の保全と利用を考え「水と緑あふれる水辺空間」を地域住民と一体となり創出する。					
施策	1 環境にやさしく自然豊かな、住んでいてよかったなと思えるまち																

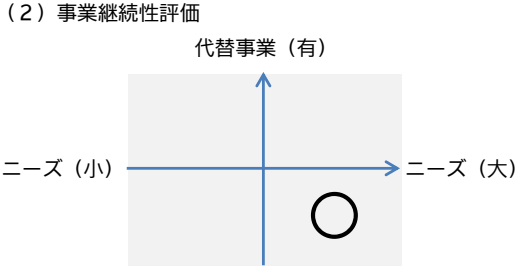
事業開始時周辺環境（背景）		現状周辺環境		今後周辺環境（予測）		住民意向分析	
都市化の進行により、身近に自然に触れ合うことができる空間整備の要望は多いが、公共事業費が縮減する中で、十分な整備及び維持管理が困難となっていた。		地域の河川愛護団体が積極的に活動することで、水辺空間が適切に管理されるとともに、良好な地域コミュニティが醸成されている。		河川愛護団体を積極的に育成することは、良好な水辺空間の維持に有効である。しかし、高齢化等により河川愛護活動の継続が困難となっている団体が出始めており、活動範囲の縮小や、会員数の減少が危惧される。		河川沿いは、他の交通に阻害されること無く自然環境に触れながら散歩等ができる空間であり、地域住民から沿川の適切な管理及び整備を求める声は高まっている。	

2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度（令和 4 年度）		2023年度（令和 5 年度）		2024年度（令和 6 年度）		2025年度（令和 7 年度）		2026年度（令和 8 年度）		2027年度		2028年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	中間指標 2021年度	最終指標 2025年度
対象指標	河川愛護団体管理延長	m		66,080		64,645		63,825								
活動指標①	（河川愛護団体新規結成数 令和 4 年度まで使用）	団体	2	1												
活動指標②	河川愛護団体数	団体	67	66	66	64	64	63	64		64		64	64		
活動指標③	看板設置数（活動 P R 用）	団体			10	6	10	15	15		15		15	3		
成果指標①	河川愛護団体管理率（管理総延長 L＝1,216km）	%	5.8	5.4	5.4	5.3	5.4	5.2	5.3		5.3		5.3	5.3	5.7	5.3
成果指標②	看板設置率（活動 P R 用）	%			15	9	25	33	48		72		95	100		
成果指標③																
単位コスト（総コストから算出）	河川愛護団体管理延長 1 mあたりのコスト	千円		0.30		0.32		0.34								
単位コスト（所要一般財源から算出）	河川愛護団体管理延長 1 mあたりのコスト	千円		0.15		0.16		0.17								
事業費		千円		18,263		17,597		17,828	17,597		17,597		17,597	17,597		
人件費		千円		1,532		3,028		3,661	3,028		3,028		3,028	3,028		
歳出計（総事業費）		千円		19,795		20,625		21,489	21,796		20,625		20,625	20,625		
国・県支出金		千円		9,966		10,176		10,571	9,670		10,176		10,176	10,176		
市債		千円														
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円														
その他		千円														
一般財源等		千円		9,829		10,449		10,918	12,126		10,449		10,449	10,449		
歳入計		千円		19,795		20,625		21,489	21,796		20,625		20,625	20,625		
		実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続		継続						

活動指標分析結果		成果指標分析結果		総事業費（事業費・人件費）分析結果	
会員の高齢化等に伴い 1 団体が退会したため、河川愛護団体は 6 3 団体となった。		河川愛護団体が減少傾向にあるため、美化活動の P R 看板を設置し河川愛護意識の醸成を図った。		【事業費】 前年同様の事業規模であった。	
				【人件費】 新型コロナウイルス対策の行動制限緩和により、河川愛護活動も年々活発となり、活動支援に伴う事務手続きが増加した。	

### 3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性		4
2 公平性		4
3 効率性		4
4 活動指標（活動達成度）		3
5 成果指標（目的達成度）		4



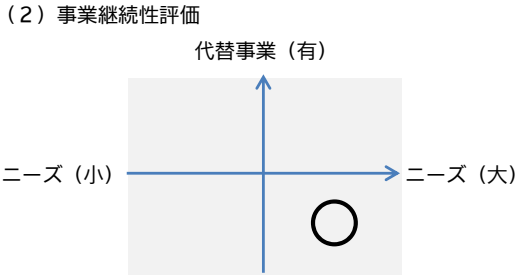
継続	一次評価コメント
河川愛護団体による河川管理を促進し、水辺空間の整備に努めており、計63団体において、河川環境の美化活動を実施した。 なお、この活動は県からの委託費を活用しながら県及び市の管理河川を対象におこなわれている。 今後においても、地域の河川愛護団体が積極的に活動することで、水辺空間が適切に管理されることから、継続して事業を実施する必要がある。	

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）

気候変動対応	D X（デジタル市役所）	部局間協奏
○		○

### 4 二次評価

(1) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性		3
2 公平性		4
3 効率性		3
4 活動指標（活動達成度）		4
5 成果指標（目的達成度）		4



継続	二次評価コメント
令和 6 年度は、63 団体により除草、ごみ拾いなどの河川美化活動が行われた。河川愛護団体 1 団体の退会があったが、看板設置等により活動の PR を実施したところである。河岸延長に対して河川愛護団体が管理している割合は 5.2% となっているが、山間部を除く居住地域は概ね団体により管理されており、地域住民との一体的な管理により良好な水辺空間の維持が図られている。 今後においても、地域の河川愛護団体の積極的な活動により、水辺空間の適切な管理を推進するため、継続して事業を実施する。 なお、会員の高齢化に伴う退会があったことから、団体の継続的な活動のための支援策等を具体的に検討していく必要がある。また、さらなる事業の普及や新規加盟団体の増加を促進するため、加盟団体名や活動状況の公表等、PR 手法について検討する必要がある。	

(参考) 令和 6 年度カイゼンのための行動計画